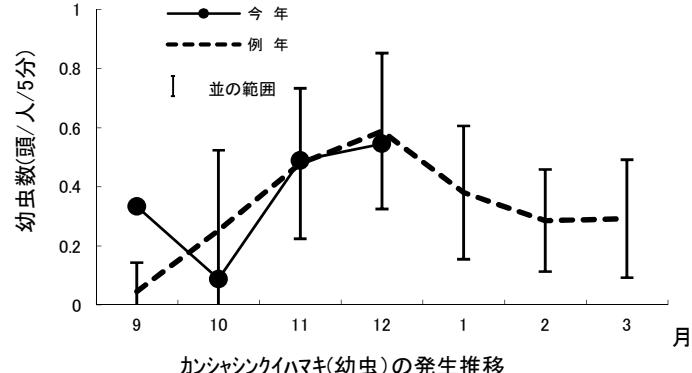
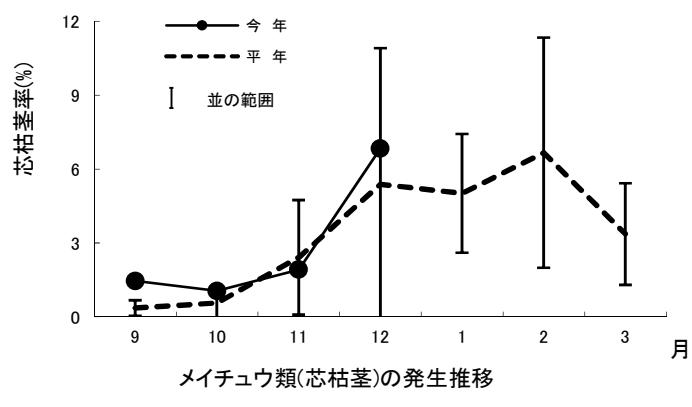


平成 30 年度

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ)		
12 月の発生量 (現況)	並		
1 月の増減傾向	→		



発生量の根拠 (調査結果)



- 茎内で発見したメイチュウ類の94%がカンシャシンクイハマキだった。

防除のポイント

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入り、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- 培土時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島																																																	
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)																																																			
12 月の発生量 (現況)	並																																																			
1 月の増減傾向	→																																																			
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量と考えられる。																																																			
発生量の根拠 (調査結果)	<table border="1"> <caption>メイチュウ類(芯枯)の発生推移</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>今 年 (%)</th> <th>平 年 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9</td><td>~1.5</td><td>~0.5</td></tr> <tr><td>10</td><td>~1.0</td><td>~0.5</td></tr> <tr><td>11</td><td>~2.0</td><td>~0.5</td></tr> <tr><td>12</td><td>~6.5</td><td>~5.5</td></tr> <tr><td>1</td><td>~5.5</td><td>~5.5</td></tr> <tr><td>2</td><td>~6.5</td><td>~6.0</td></tr> <tr><td>3</td><td>~3.5</td><td>~3.5</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>イネヨトウ(幼虫)の発生推移</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>今 年 (頭/5分)</th> <th>例 年 (頭/5分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9</td><td>~0.05</td><td>~0.15</td></tr> <tr><td>10</td><td>~0.05</td><td>~0.15</td></tr> <tr><td>11</td><td>~0.05</td><td>~0.20</td></tr> <tr><td>12</td><td>~0.05</td><td>~0.25</td></tr> <tr><td>1</td><td>~0.30</td><td>~0.30</td></tr> <tr><td>2</td><td>~0.55</td><td>~0.50</td></tr> <tr><td>3</td><td>~0.35</td><td>~0.60</td></tr> </tbody> </table>	月	今 年 (%)	平 年 (%)	9	~1.5	~0.5	10	~1.0	~0.5	11	~2.0	~0.5	12	~6.5	~5.5	1	~5.5	~5.5	2	~6.5	~6.0	3	~3.5	~3.5	月	今 年 (頭/5分)	例 年 (頭/5分)	9	~0.05	~0.15	10	~0.05	~0.15	11	~0.05	~0.20	12	~0.05	~0.25	1	~0.30	~0.30	2	~0.55	~0.50	3	~0.35	~0.60	<ul style="list-style-type: none"> 茎内で発見したメイチュウ類の6%がイネヨトウだった。 本島南部のフェロモントラップによる成虫の誘殺虫数は0 (頭/日) だった。 		
月	今 年 (%)	平 年 (%)																																																		
9	~1.5	~0.5																																																		
10	~1.0	~0.5																																																		
11	~2.0	~0.5																																																		
12	~6.5	~5.5																																																		
1	~5.5	~5.5																																																		
2	~6.5	~6.0																																																		
3	~3.5	~3.5																																																		
月	今 年 (頭/5分)	例 年 (頭/5分)																																																		
9	~0.05	~0.15																																																		
10	~0.05	~0.15																																																		
11	~0.05	~0.20																																																		
12	~0.05	~0.25																																																		
1	~0.30	~0.30																																																		
2	~0.55	~0.50																																																		
3	~0.35	~0.60																																																		
防除のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。 ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。 培土時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。 																																																			

